

## 第2章 アンケート調査結果の概要

## 第2章 アンケート調査結果の概要

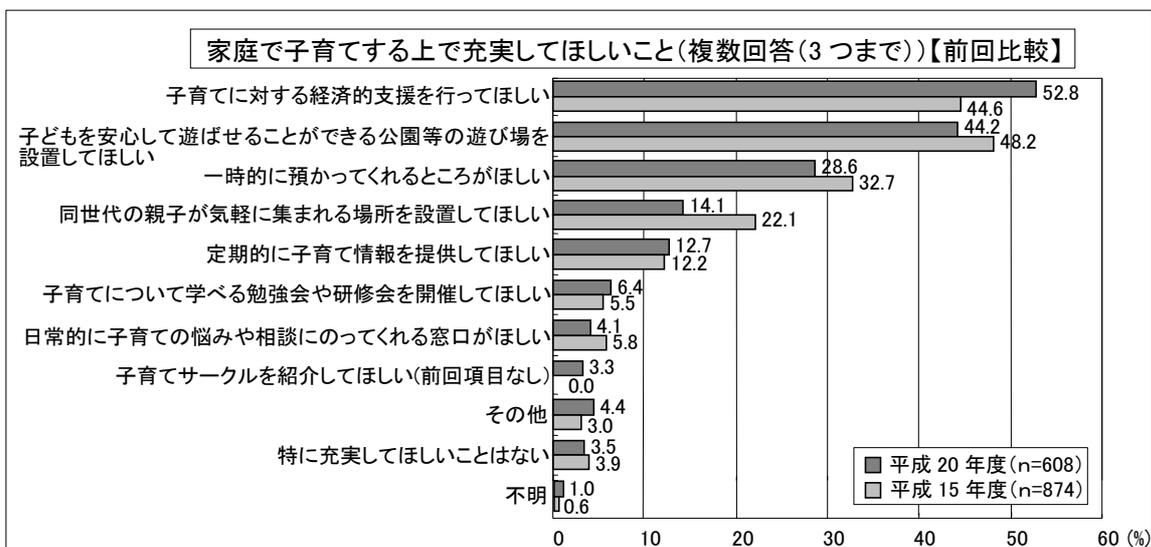
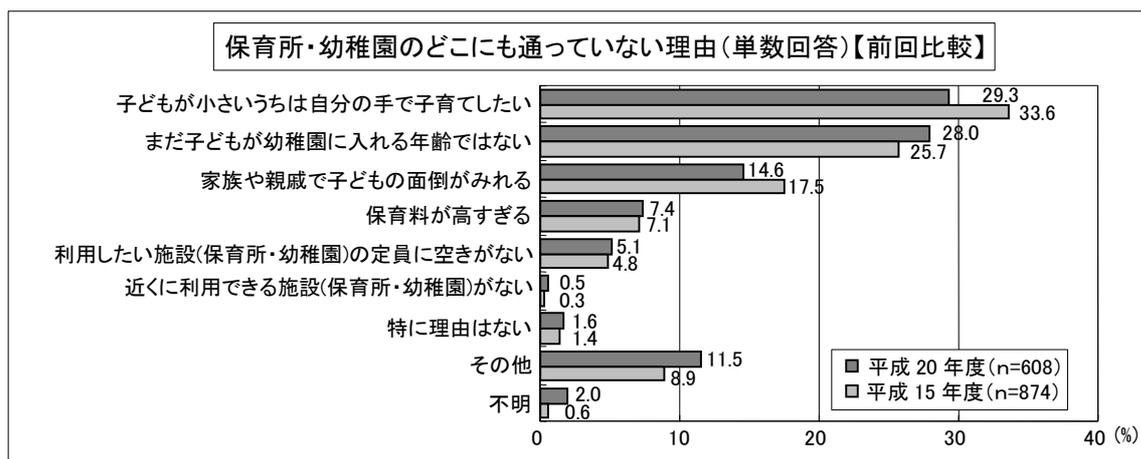
### 1 小学校入学前児童の保護者、小学生・中学生の保護者の意識調査結果

#### (1) 子育ての現状について

#### ○家庭で子育てをしている人は、子育てに対する経済的支援や子どもが安心して遊べる場の設置などのニーズが引き続き高い。

(小学校入学前児童の保護者の意識調査結果より)

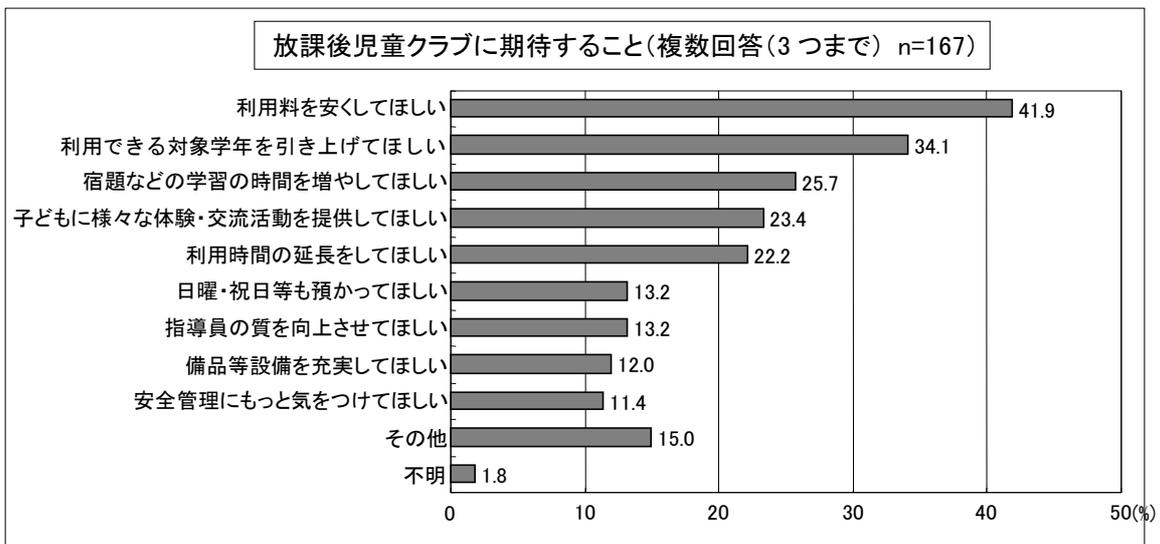
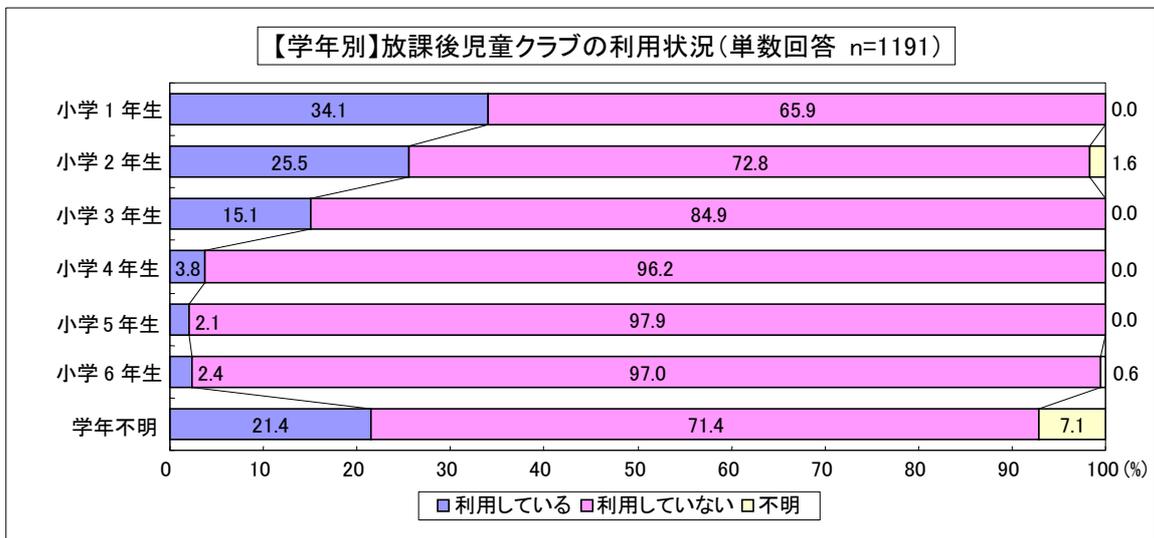
- ・保育所・幼稚園のどこにも通わせておらず家庭で子育てをしている保護者（608人）の29.3%が、その理由として、「子どもが小さいうちは自分の手で子育てしたい」を挙げており、前回調査結果（H15：33.6%）同様最も多くなっている。
- ・子育て支援への要望については、「子育てに対する経済的支援」が52.8%で最も多い。前回調査結果の44.6%を大きく上回る結果となった。次いで、「子どもが安心して遊べる場の設置」（44.2%）、「子どもの一時預かり」（28.6%）となっている。



**○放課後クラブを利用している人は、「利用料を安くしてほしい」「対象学年を引き上げてほしい」「利用時間の延長」などのニーズが高い。**

(小学生・中学生の保護者の意識調査結果より)

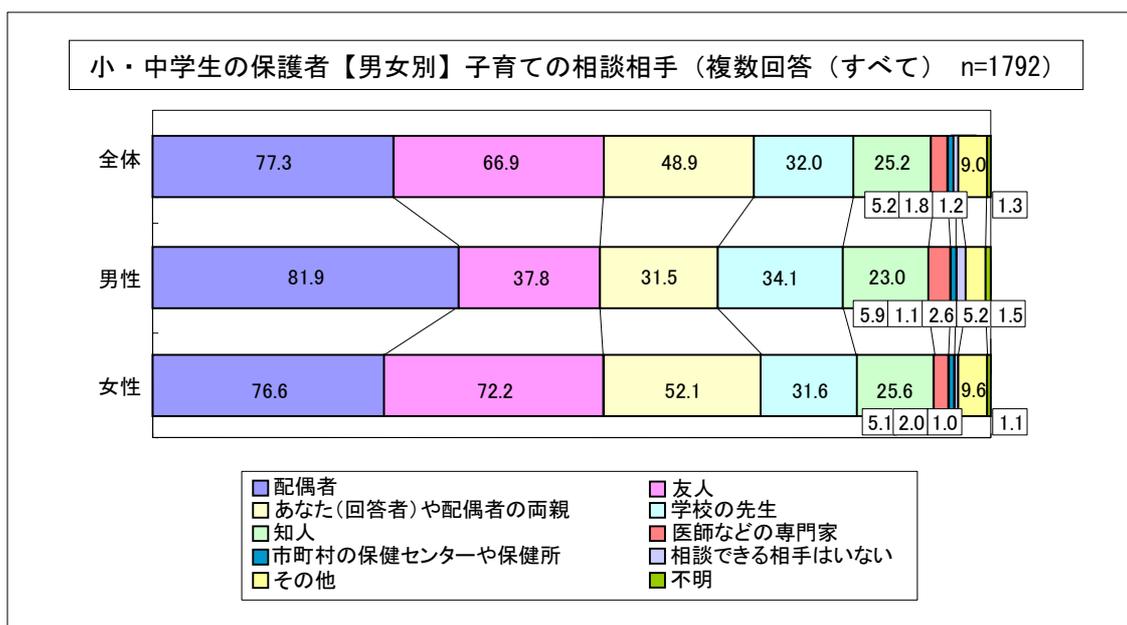
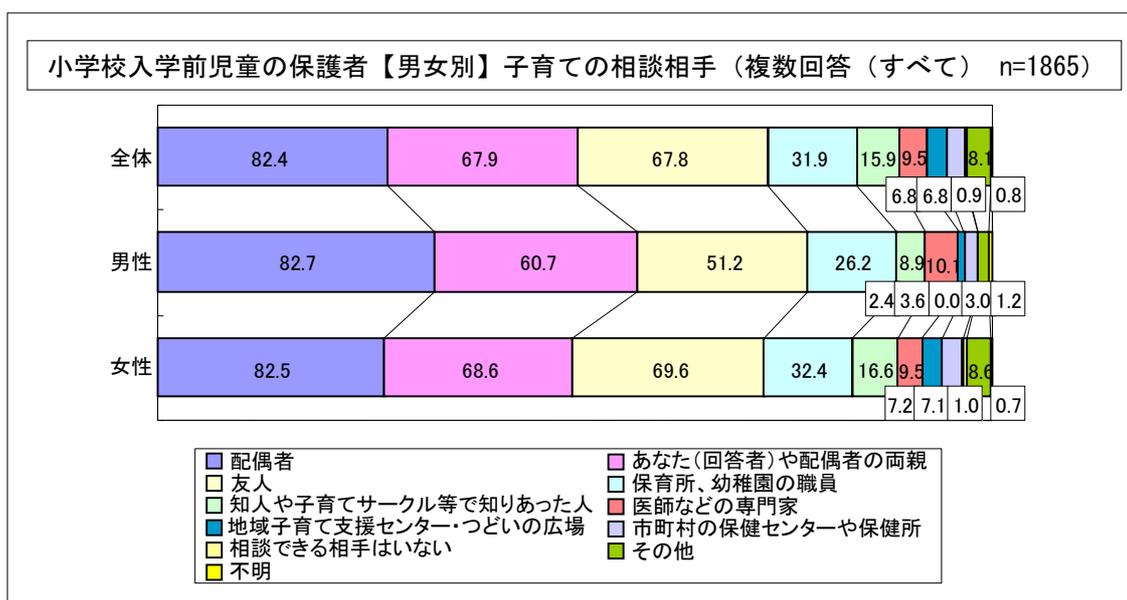
- ・放課後児童クラブの利用状況を子どもの学年別にみると、小学1年生で34.1%、2年生で25.5%、3年生で15.1%が利用している。
- ・期待することとして、「利用料を安くしてほしい」(41.9%)が最も多い。次いで、「対象学年を引き上げてほしい」(34.1%)となっている。「利用時間の延長をしてほしい」(22.2%)、「日曜・祝日等も預かってほしい」(13.2%)などの回答も多く、利用時間の拡大を望む回答となっている。
- ・クラブの内容に関しては、「宿題など学習の時間を増やしてほしい」(25.7%)、「子どもに様々な体験・交流活動を提供してほしい」(23.4%)への回答が多い。



**○子育てのことで悩んだり、不安がある時に相談する相手は、配偶者・両親などの身近な範囲が最も多く、子どもが成長するにつれ「身内から知人」などへの相談先の広がりが窺える。**

(小学校入学前児童の保護者、小学生・中学生の保護者の意識調査結果より)

- ・小学校入学前児童の保護者は、「配偶者」(82.4%)が最も多い。次いで、「回答者や配偶者の両親」(67.9%)、「友人」(67.8%)とほぼ同数の回答となっており、身近な範囲での相談が主となっている。
- ・小学生・中学生の保護者は、「配偶者」(77.3%)が最も多い。次いで、「友人」(66.9%)となった。「回答者や配偶者の両親」は48.9%と小学校入学前児童の保護者と比べ少なく、かわりに「知人」が25.2%と増えている。



○「理想の子どもの数」は2.80人に対し「実際の子どもの数」は2.36人。理想と実際の差は、0.44人。

(小学校入学前児童の保護者、小学生・中学生の保護者の意識調査結果より)

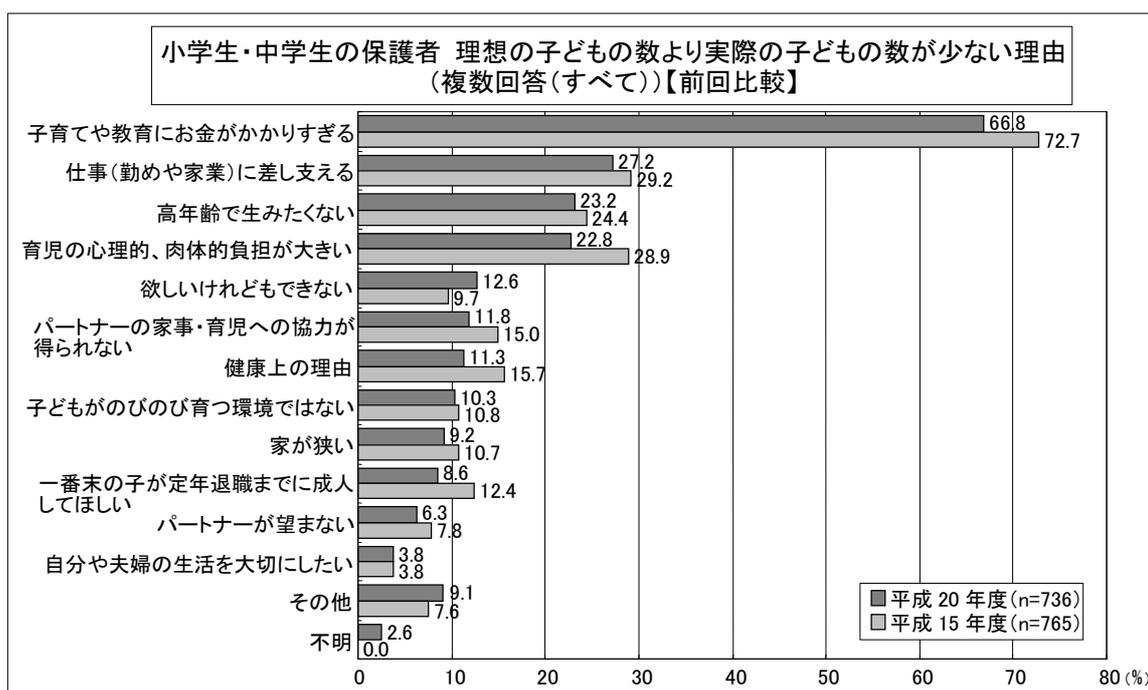
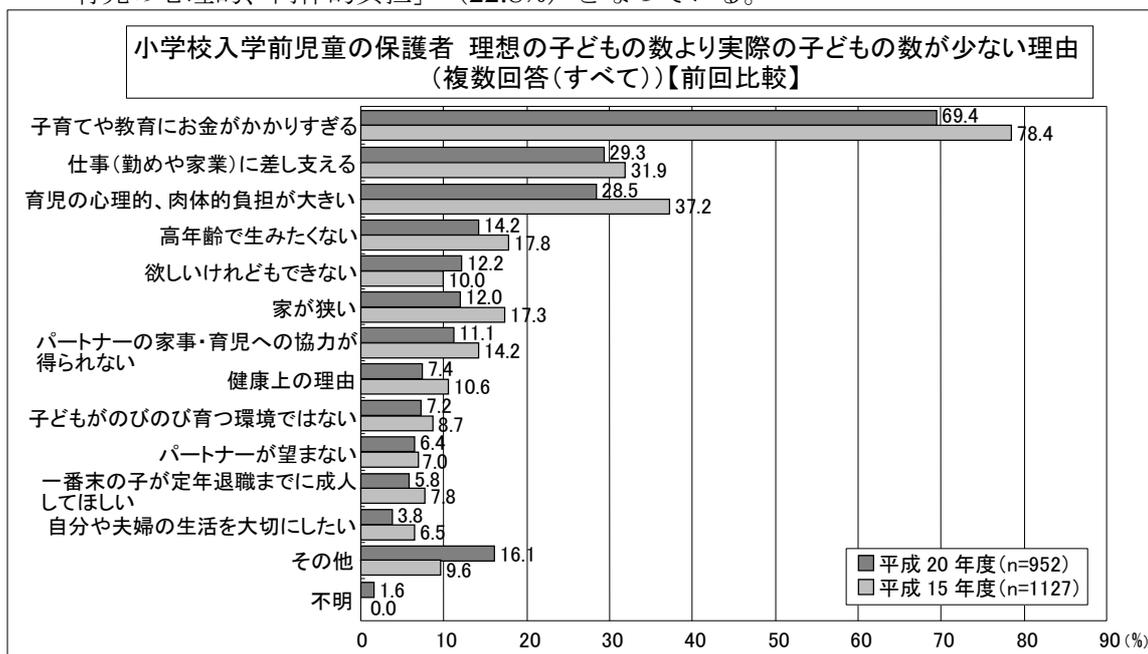
- ・小学校入学前児童の保護者の「理想の子どもの数」は、平均2.78人(H15:2.81人)。「実際の子どもの数」は、平均2.26人(H15:2.32人)で、理想と実際の差は0.52人(H15:0.49人)となっている。
- ・小学生・中学生の保護者の「理想の子どもの数」は、平均2.82人(H15:2.97人)。「実際の子どもの数」は平均2.46人(H15:2.61人)で、理想と実際の差は0.36人(H15:0.36人)となっている。
- ・全体の「理想とする子どもの数」は2.80人(H15:2.89人)、「実際の子どもの数」は2.36人(H15:2.46人)となっており、理想と実際の差は0.44人(H15:0.43人)となっている。
- ・前回調査結果と比較すると、全体として「理想の子どもの数」、「実際の子どもの数」ともに少なくなっているが、理想と実際の差については大きな変化はみられない。

		理想の子どもの数		実際の子どもの数		理想と実際の差
小学校 入学前児童 保護者	H20年度	2.78	△0.03	2.26	△0.06	0.52
	H15年度	2.81		2.32		0.49
小・中学生 保護者	H20年度	2.82	△0.15	2.46	△0.15	0.36
	H15年度	2.97		2.61		0.36
全体	H20年度	2.80	△0.09	2.36	△0.10	0.44
	H15年度	2.89		2.46		0.43

## ○理想より実際の子どもの数が少ない背景に、前回調査時と同じく経済的負担、仕事への支障、育児の心理的・肉体的負担がある。

(小学校入学前児童の保護者、小学生・中学生の保護者の意識調査結果より)

- ・理想よりも実際の子どもの数が少ない理由としては、小学校入学前児童の保護者は、前回調査結果 (H15:78.4%) と同じ「経済的負担」(69.4%) が最も多い。次いで、「仕事への支障」(29.3%)、「育児の心理的、肉体的負担」(28.5%) となっている。
- ・また、小学生・中学生の保護者も、前回調査結果と同じ「経済的負担」(66.8%) が最も多い。次いで、「仕事への支障」(27.2%)、「高年齢で生みたくない」(23.2%)、「育児の心理的、肉体的負担」(22.8%) となっている。

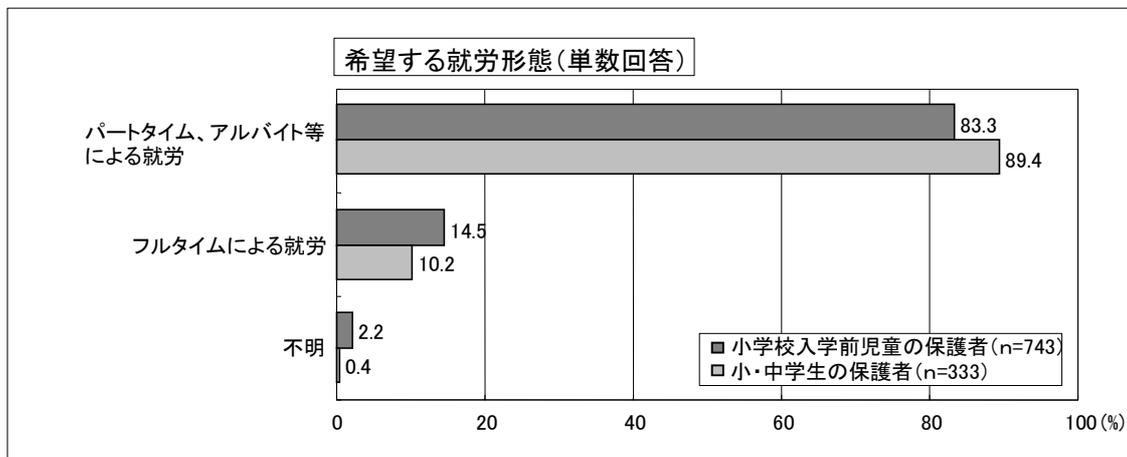
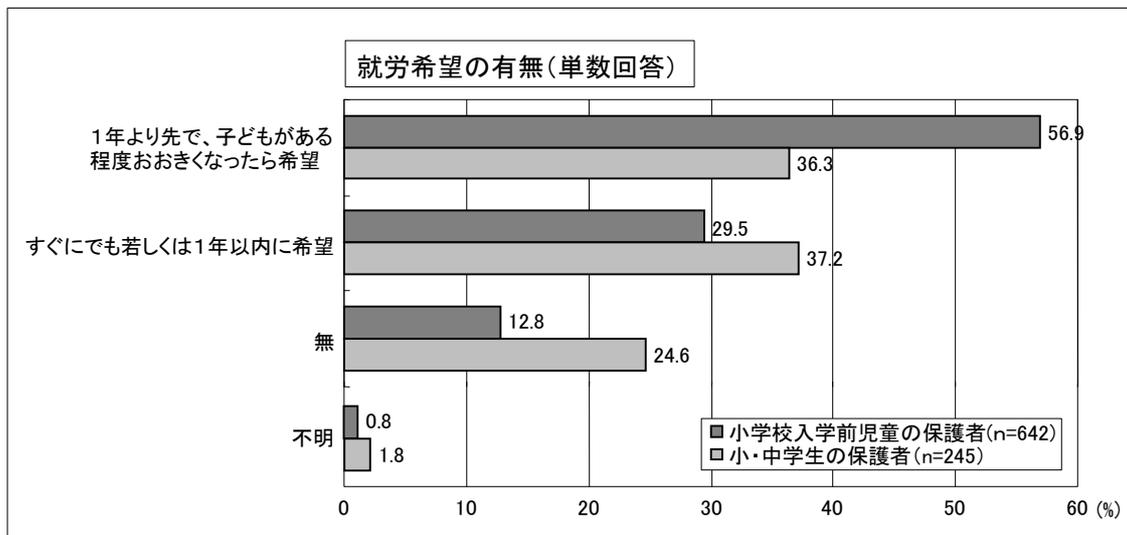


(2) 子育てと就労について

**○現在就労していない小学校入学前児童の母親の8割以上、小・中学生の母親の7割以上が就労を希望。**

(小学校入学前児童の保護者、小学生・中学生の保護者の意識調査結果より)

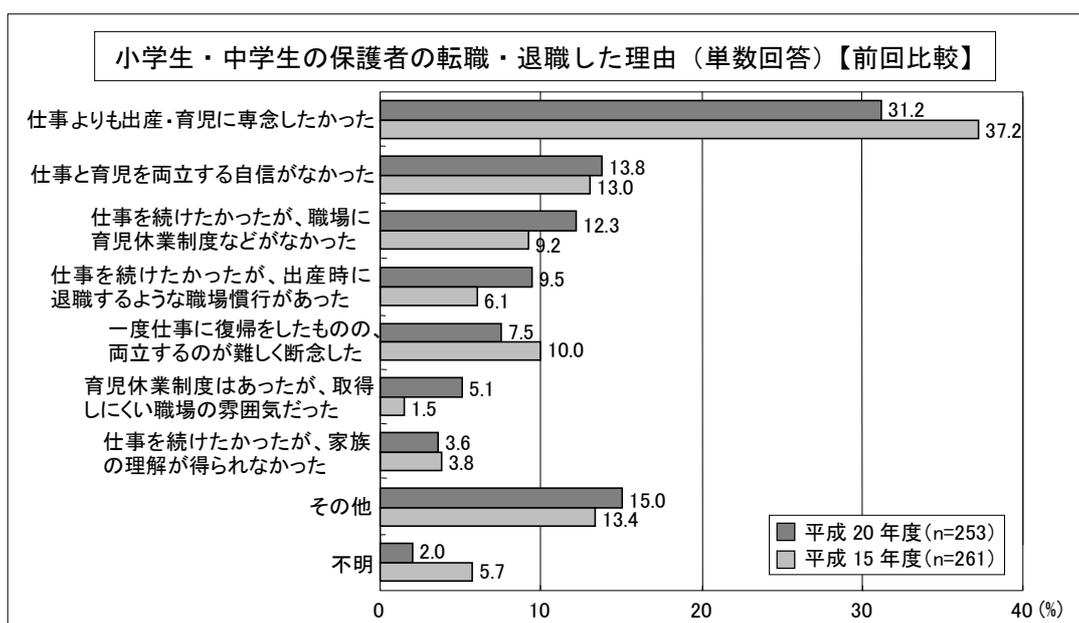
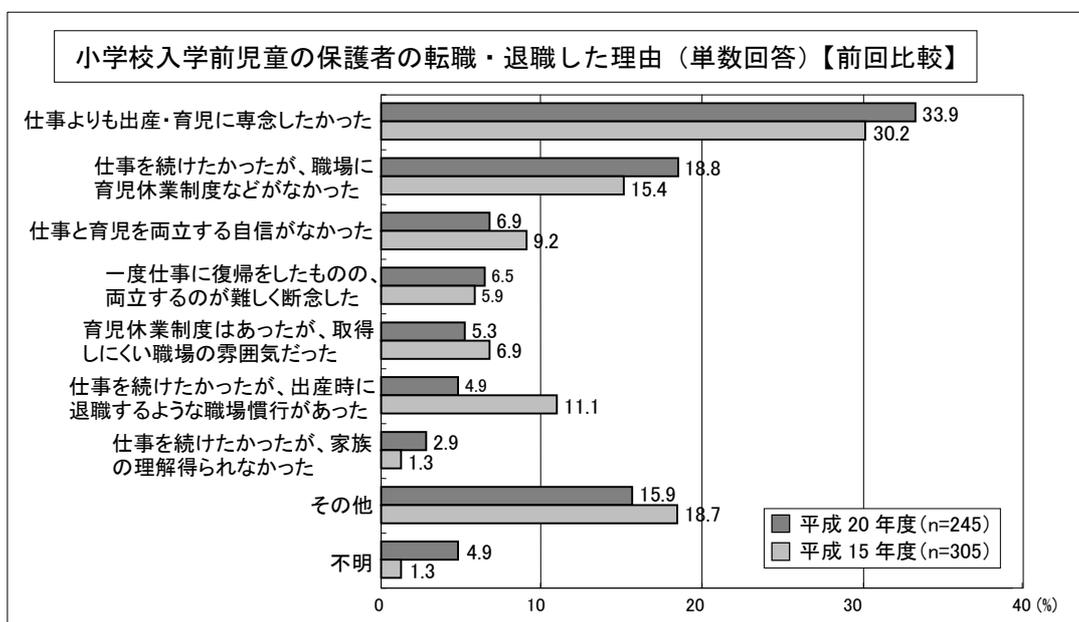
- ・小学校入学前児童の母親で、現在は就労していないが就労を希望しているのは、「1年より先で子どもがある程度おおきくなったら」が56.9%、「すぐにでも若しくは1年以内」が29.5%あり、合わせると86.4%である。希望する就労形態は「パート・アルバイト」が83.3%である。
- ・同じく小学生・中学生の母親では、「1年より先で子どもがある程度おおきくなったら」が36.3%、「すぐにでも若しくは1年以内」が37.2%、合わせると73.5%が就労を希望している。希望する就労形態は「パート・アルバイト」が89.4%である。



## ○仕事よりも出産・育児に専念するために転職・退職した母親は、3割を超える。

(小学校入学前児童の保護者、小学生・中学生の保護者の意識調査結果より)

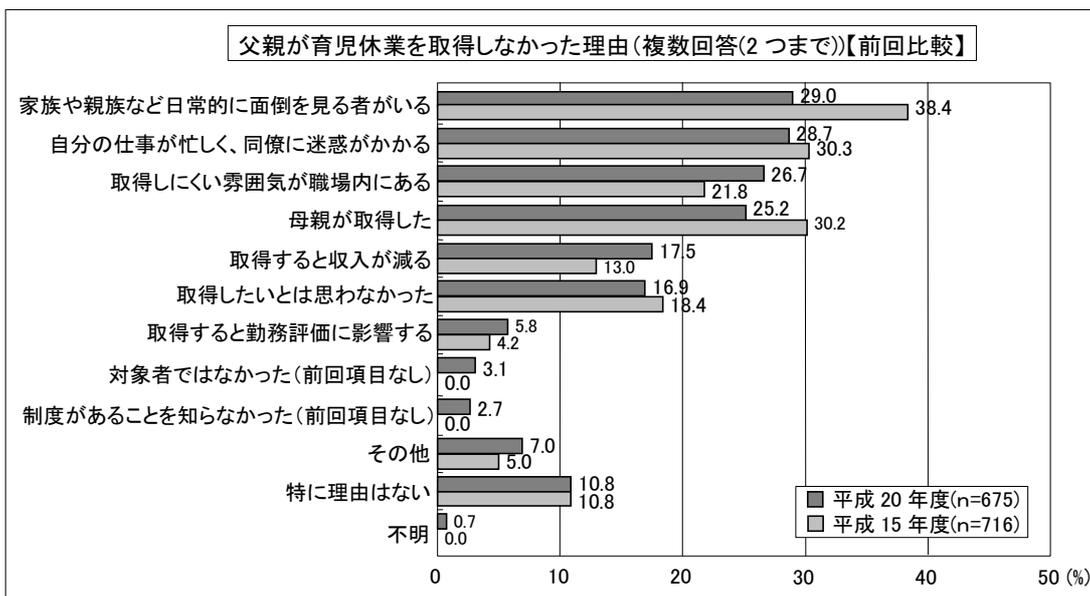
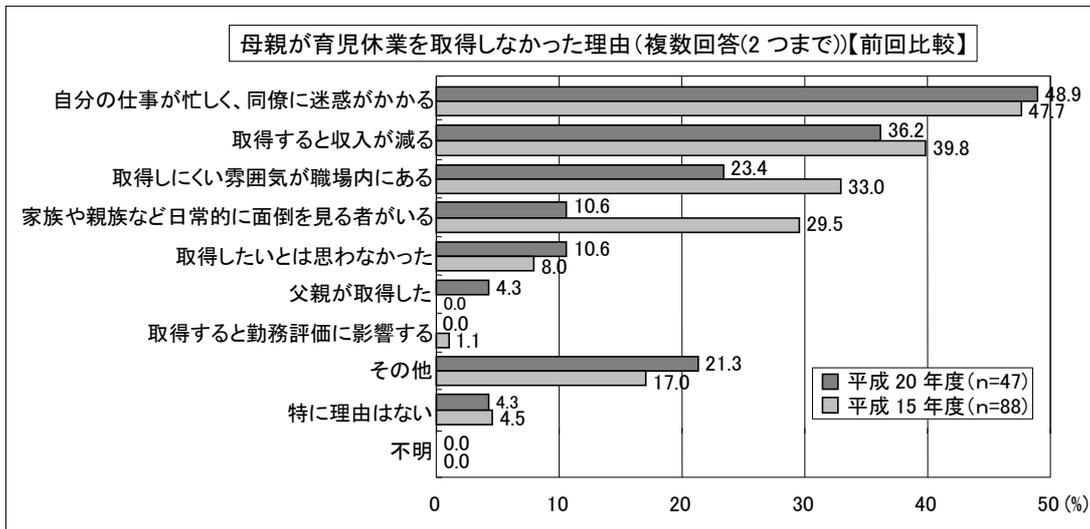
- ・出産・育児をきっかけに転職・退職した理由は、小学校入学前児童の母親の場合、「仕事よりも出産・育児に専念したかった」が33.9%で最も多いが、一方で、「仕事を続けたかった」としながら、「育児休業制度がなかった」(18.8%)、「両立できず断念」(6.5%)、「職場の雰囲気」(5.3%)、「職場の慣行」(4.9%)など、職場環境から転職・退職した人は35.5%(H15:39.3%)である。
- ・小学生・中学生の母親の場合も、「仕事よりも出産・育児に専念したかった」が31.2%で最も多いが、上記同様、職場環境という人は34.4%(H15:26.8%)である。



**○制度があるのに育児休業を取得しなかった理由として、「取得しにくい雰囲気職場内にある」と回答した母親の割合が前回調査時より減少。**

(小学校入学前児童の保護者の意識調査結果より)

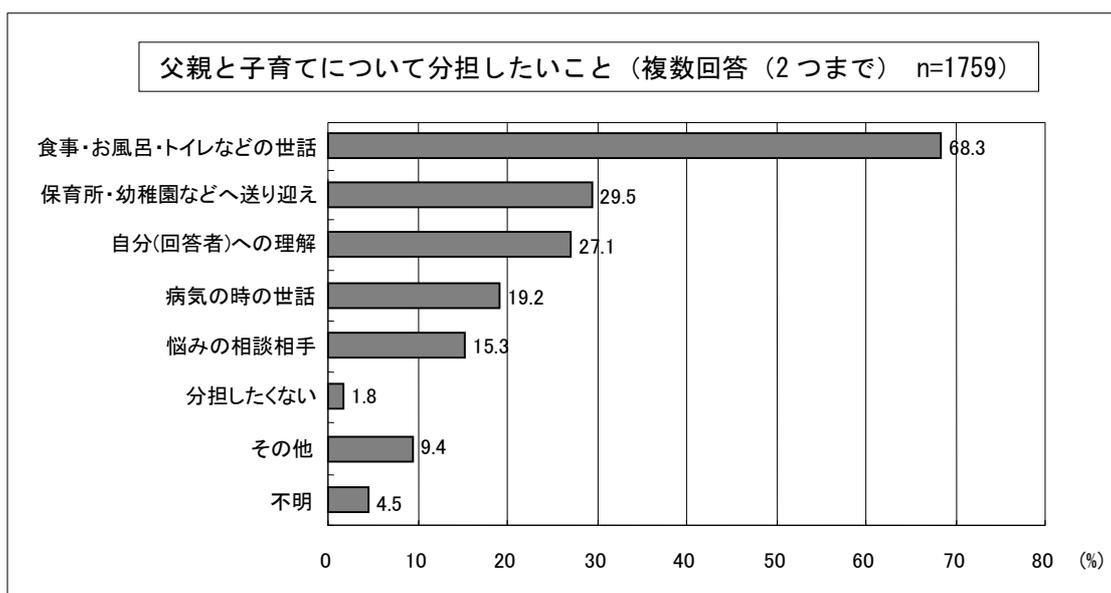
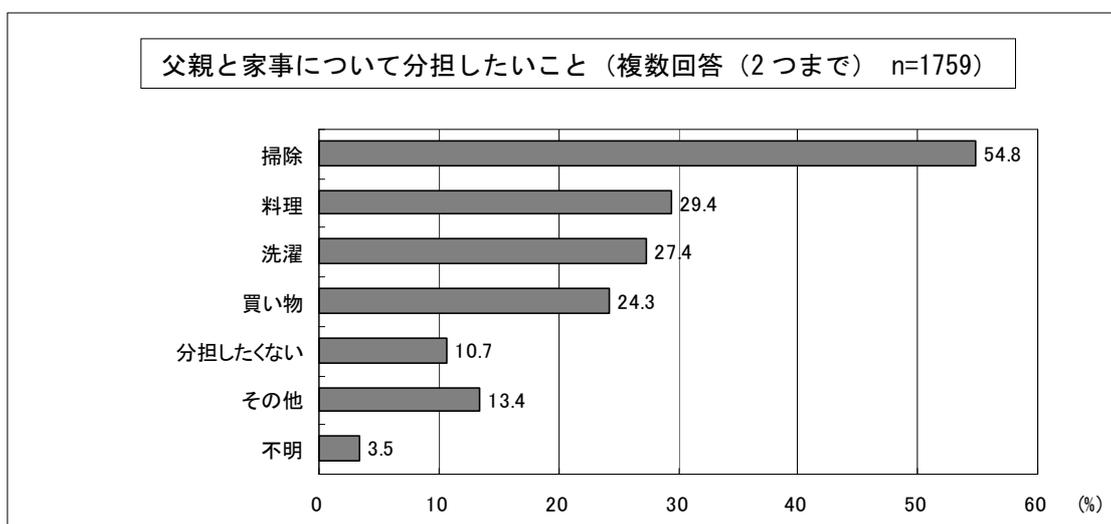
- ・育児休業を取得しなかった理由として、母親の場合は、「同僚に迷惑がかかる」(48.9%)、「収入が減る」(36.2%)などとなっている。前回調査結果と比較すると、上位2項目に大きな変化はみられないが、「取得しにくい雰囲気職場内にある」が、33.0%から23.4%と少なくなっている。
- ・父親の場合は、「日常的に面倒を見る者がいる」(29.0%)、「同僚に迷惑がかかる」(28.7%)、「取得しにくい雰囲気職場内にある」(26.7%)、「母親が取得した」(25.2%)と続いている
- ・前回調査結果から、母親、父親ともに「日常的に面倒を見る者がいる」と回答した割合が大きく減少している。



**○母親が希望する父親との分担は、家事に関しては「掃除」、子育てに関しては「食事・お風呂・トイレなどの世話」が5割を超える。**

(小学校入学前児童の保護者の意識調査結果より)

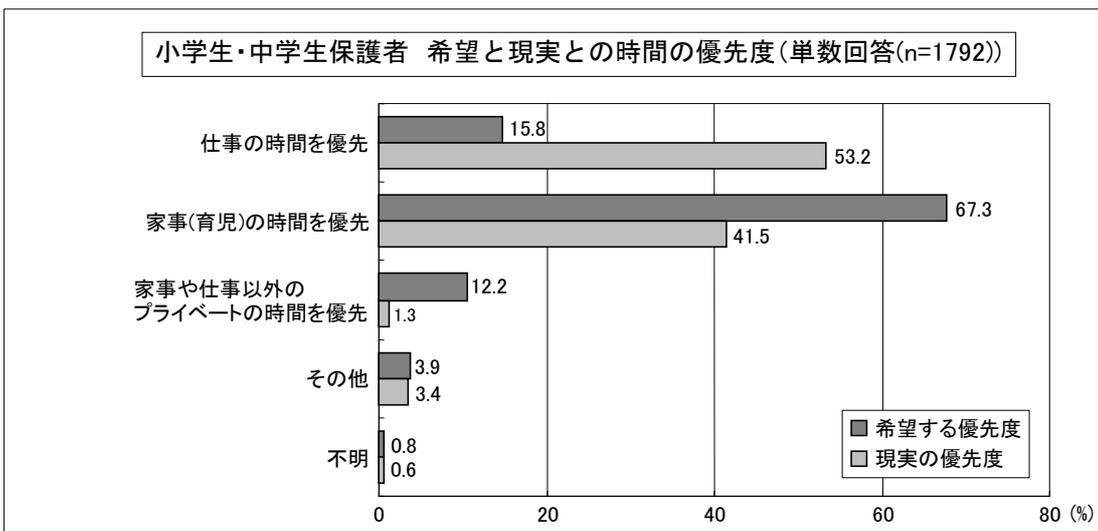
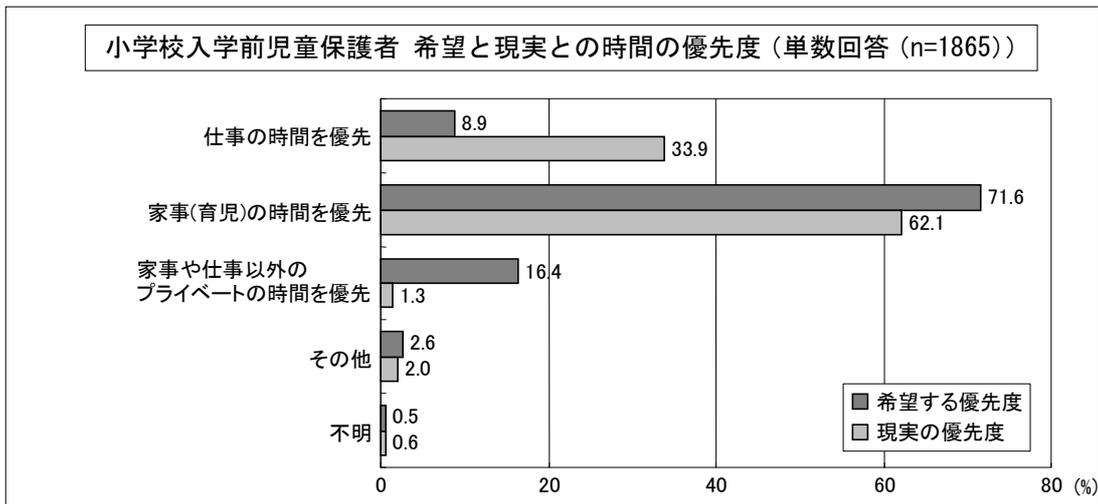
- ・家事に関しては、「掃除」(54.8%)が最も多い。次いで、「料理」(29.4%)、「洗濯」(27.4%)となっている。
- ・子育てに関しては、「食事・お風呂・トイレなどの世話」が68.3%と極めて高い。次いで、「保育所・幼稚園などへ送り迎え」が29.5%となっている。
- ・また、「自分(回答者)への理解」が27.1%、「悩みの相談相手」が15.3%となっており、母親の意見として、分担だけでなく理解や相談への期待を反映している回答となっている。



**○小学校入学前児童の保護者は、「仕事」優先を希望する人は、8.9%に過ぎないが、現実には33.9%が「仕事」優先となっている。**

(小学校入学前児童の保護者、小学生・中学生の保護者の意識調査結果より)

- ・小学校入学前児童の保護者について、希望する優先順位としては、「家事（育児）」が71.6%、「家事や仕事以外のプライベート」が16.4%となっている。しかし、現実には優先しているのは、「家事（育児）」が62.1%と9.5ポイント、「プライベート」は希望の16.4%から1.3%と15.1ポイント減少し、かわりに「仕事」が8.9%から33.9%と25.0ポイント増加している。
- ・小学生・中学生の保護者について、「家事（育児）」が希望では67.3%であるが、現実には優先しているのは41.5%にとどまっている。また、「プライベート」は希望では12.2%だが、現実には優先しているのは1.3%である。「仕事優先」の希望は15.8%であるが、現実には53.2%が仕事優先になっている。

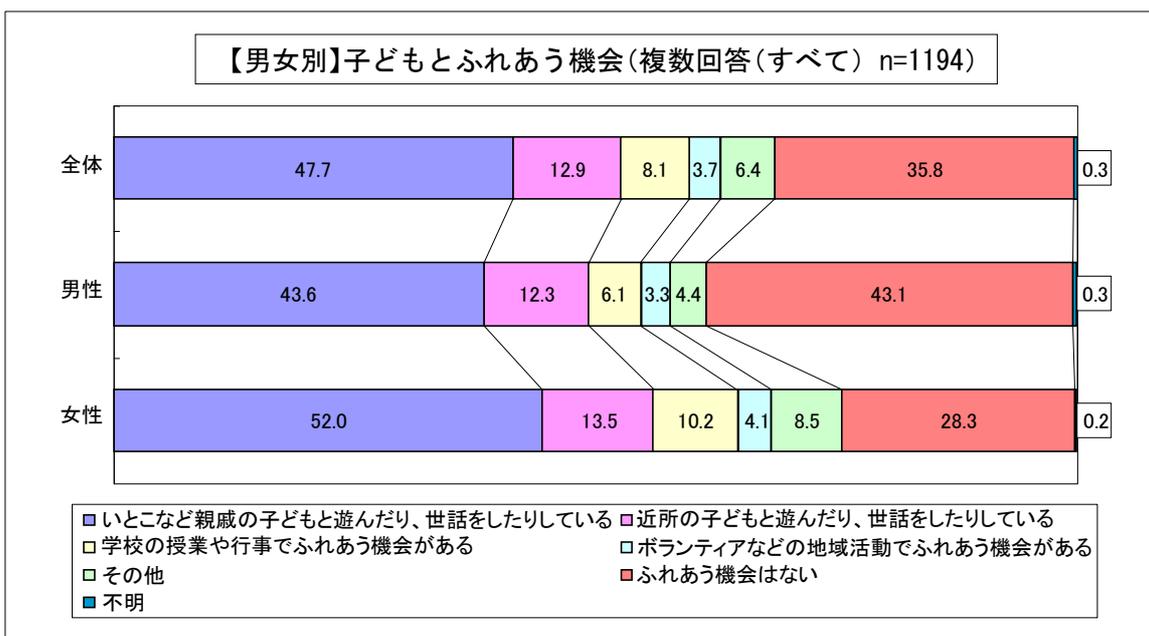
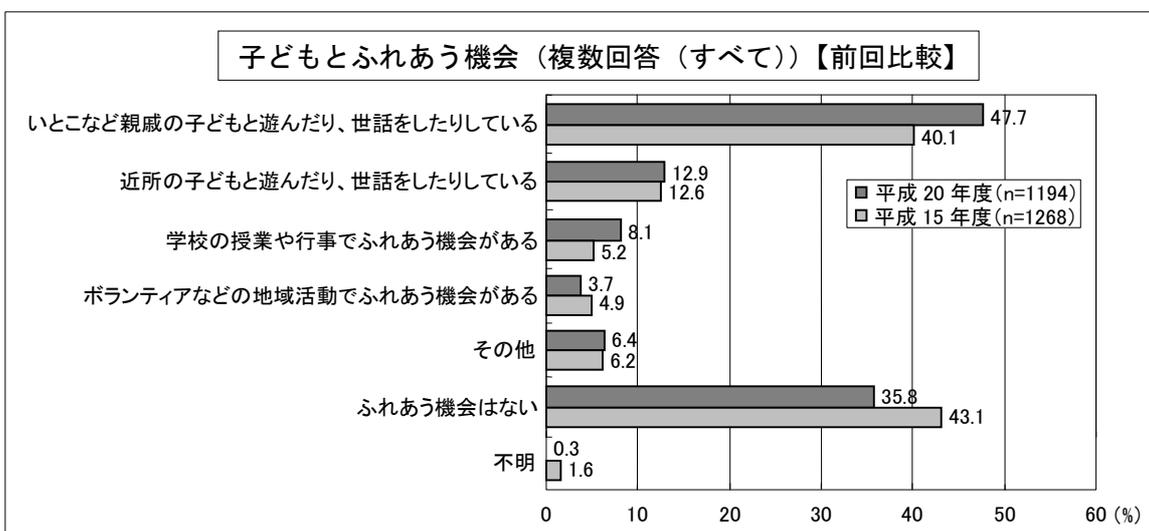


## 2 高校生の意識調査結果

### (1) 高校生の生活環境、生活実態について

#### ○子どもとふれあう機会がある生徒が、前回調査時より増加。

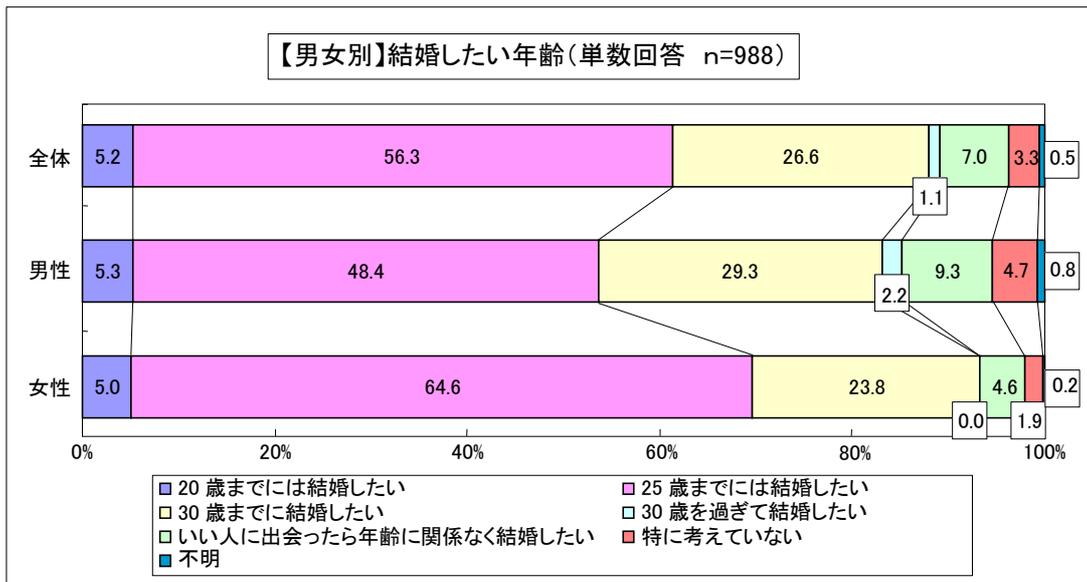
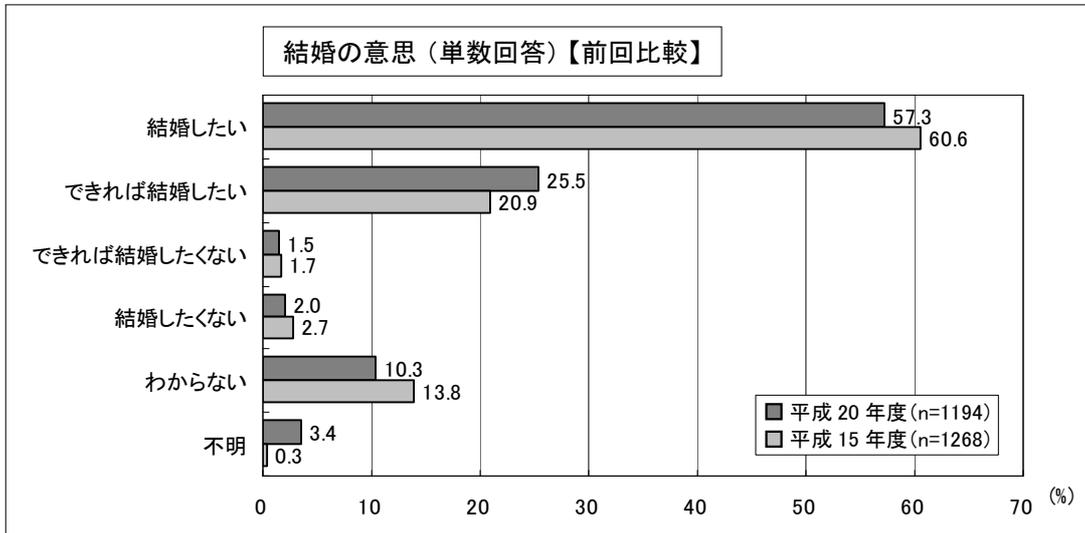
- ・前回調査結果と比較すると、「ふれあう機会はない」の割合が、43.1%から 35.8%に減少しており、ふれあう機会がある生徒が増加していることを示している。
- ・「ふれあう機会がない」を男女別にみると、女性の方が低く、男性が高くなっている。
- ・「近所の子どもと遊んだりしている」は前回の 12.6%から今回 12.9%とほぼ同じであるが、「学校の授業や行事でふれあう」は 5.2%から 8.1%と増えている。



(2) 家族観、結婚観について

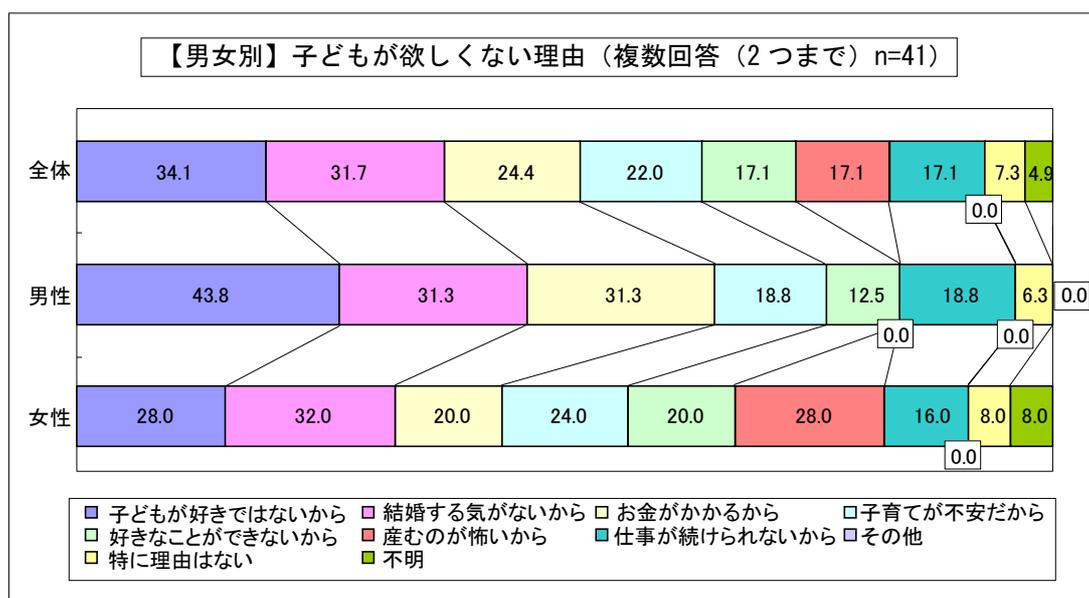
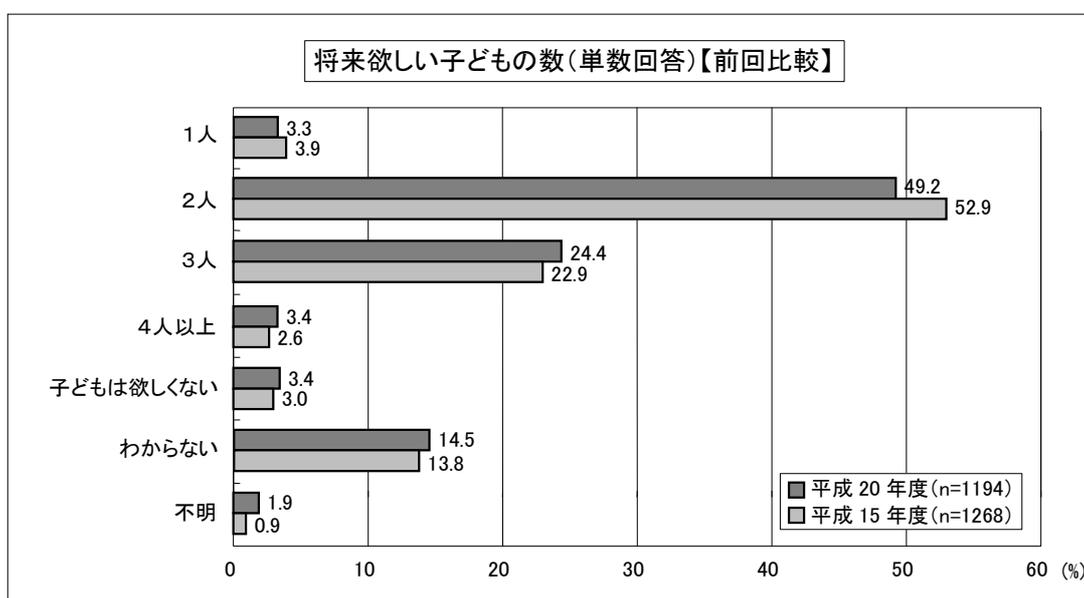
**○ 8割以上の生徒が結婚を望み、約9割が30歳までに結婚したいと回答。**

- ・「結婚したい」(57.3%)、「できれば結婚したい」(25.5%)を合わせると、82.8%の生徒が結婚を望んでいる。
- ・結婚を望む回答をした人のうち、「20歳までには結婚したい」が5.2%、「25歳までには結婚したい」が56.3%、「30歳までに結婚したい」が26.6%で、30歳までに結婚したい割合は88.1%となる。



## ○将来欲しい子どもの数は、2人が最も多い。

- ・49.2%の生徒が、将来欲しい子どもの数を「2人」と回答しており最も多い。「3人」と回答した人は24.4%だった。また、「欲しくない」と回答した人は3.4%と少ない。
- ・子どもが欲しくない理由としては、「子どもが好きではないから」が34.1%、「結婚する気がないから」が31.7%となっている。その他の項目についても20%程度の回答があり、好きなことができなくなる、子育てへの不安などいろいろな理由が挙げられている。



(3) 仕事や将来について

○仕事については、やりがいのある仕事を求める生徒が7割以上。

- ・「やりがいのある仕事に就きたい」が73.5%と最も多い。次いで、「収入の高い仕事に就きたい」が48.6%、「失業の不安のない仕事に就きたい」が44.3%となっており、前回調査結果の上位3項目の変動はない。
- ・しかし、「やりがいのある仕事に就きたい」が3.2ポイント減少し、「失業の不安のない仕事」が8.1ポイント、「収入の高い仕事」が2.9ポイント増加している。
- ・フリーターについては、前回調査結果と比較すると、「自分に向いた仕事が見つかるまでは良いと思う」などの一時的には仕方がないという回答が減少し、「いいとも悪いとも思わない」、「良くないことだと思う」が増加している。

